

## 脳神経内科について

和歌山県立医科大学 脳神経内科  
学内助教 中山 宜昭(なかやま よしあき) 医師



脳神経内科は、脳や脊髄、神経、筋肉の疾患を治療しています。具体的には、認知症、神経難病(パーキンソン病およびその類縁疾患、ALS、脊髄小脳変性症など)、てんかん、末梢神経障害、重症筋無力症、筋炎、筋ジストロフィー、髄膜炎・脳炎、頭痛疾患などの疾患を、症状としては身体の脱力、ふらつき、動作緩慢、ふるえ、しびれ、けいれん、物忘れ、意識障害などでお困りの方を診療しています。以前は「神経内科」と標榜しておりましたが、神経精神科と混同される患者さんも多かったため、2018年より全国的に「脳神経内科」へと標榜診療科名を変更しています。

神経難病というと「非常に稀な病気」というイメージがあるかと思いますが、代表疾患であるパーキンソン病についていうと、65歳以上の方では100人に1人程度の有病率があるのではないとも言われています。そのため認知症と同様に、今後の高齢者社会で患者数の大幅な増加が予想されています。神経難病患者さんの療養においては、患者さん一人一人に合わせた薬剤調整に加えて、リハビリの継続、もしもの時の入院受け入れなどのサポートが重要となります。当院では以前より、通院・訪問リハビリおよび訪問看護の提供、体調悪化時の入院受け入れを行っております(長期入院可能な療養病床もあり)。また指定難病の患者さんには医療費助成の申請を勧めており、なるべく軽い経済的負担でこれらのサービスを受けて頂けるよう心掛けております。

当院での外来は週2回ですが、和歌山県立医科大学脳神経内科と連携しており、大学での精査・治療が必要な場合は速やかに大学での受診につなげさせて頂くことが可能です。

脳神経内科疾患を疑う患者さんがいらっしゃったり、患者さんの療養でお困りのことなどございましたら、是非一度ご紹介頂けますと幸いです。

## 災害に対する当院での取り組み ～防災避難訓練について～

(令和元年11月28日)

当院では年2回、有田市消防署立ち合いのもと、防災避難訓練を実施しています。今回は透析中に震度5の地震が発生したことによる停電と、30分後に津波が到着するという設定で、透析を離脱しての避難訓練を行いました。緊急離脱への対応や避難経路の確認など、いざという時に適切な行動ができるよう、各職種が様々な場面を想定し訓練に取り組みました。また、院内の消火ホースを実際に使った放水訓練も行いました。

今後発生が懸念される大規模災害に備え、スタッフ一同、防災意識を高めていきたいと思っております。



## 令和元年度和歌山県ナース章受章

副院長 兼 総看護師長 濱 真理子 (令和元年11月20日)

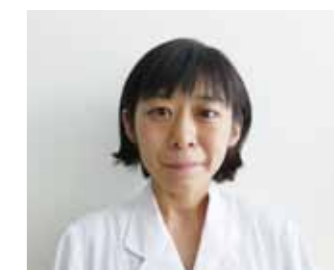
和歌山県内の医療機関や保健所などに勤め、長年業務に励んだ看護師や保健師、助産師などを表彰する和歌山県ナース章の表彰式が和歌山県庁で開催され、当院の濱真理子副院長兼総看護師長(勤続15年)が受章しました。



## 医師紹介

令和元年10月より水曜日午前の腎センター回診を担当しております腎臓内科医師の國本 悟子と申します。半端な時期の交代となりご迷惑をお掛けしておりますが、前任大矢昌樹医師から引き続き診察させていただきます。

週3回通院しながらの血液透析という心身ともに大きな負担となる治療を受けておられる透析患者の皆様。その負担を少しでも軽減できればと日々診察にあたっております。どうぞよろしくお願いいたします。



腎臓内科

くにもと さとこ  
國本 悟子 医師

プロフィール

平成23年3月 福井大学卒業  
平成23年4月 和歌山県立医科大学附属病院 初期研修  
平成25年4月 和歌山県立医科大学  
腎臓内科学講座 学内助教  
以降、3回の産育児休業を経て現在に至る

## 第27回日本慢性期医療学会 (令和元年12月3日・4日 於:大阪国際会議場)

当院より2名のスタッフが以下の内容で演題発表を行い、林好看看護主任が「ターミナルケア・緩和ケア・看取り」のセッションにて座長を務めました。

### 【演題発表】

- テーマ:「口腔ケア技術向上への取り組み  
～歯科医師、歯科衛生士の介入を通じて～」  
発表者: 柏田あゆみ看護副主任
- テーマ:「慢性期病院での患者に対する接し方  
～人工呼吸器離脱を通じて～」  
発表者: 大向利奈看護師

